

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590500088	
法人名	株式会社 大日向建築	
事業所名	グループホームかがやき・かがやき2号館	
所在地	秋田県にかほ市三森字午ノ浜126番地1・120番地	
自己評価作成日	平成30年10月1日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1
訪問調査日	平成30年10月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様が「安心・安全・快適」に過ごせるように、ご家族様にも安心と信頼を感じていただける施設を目指しています。入居者様が出来る事を維持することで日常生活が不活性化せず笑顔で過ごせるよう、しみとハリのある生活の推進に努めています。また、入居者様も超高齢であり外出が厳しい状況の中で個別の対応や、施設内でのゲームや行事で楽しみのある生活を送られています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2ユニットのサービス事業所として運営されています。利用者の重度化に伴い、今年度は新しく浴室の増設を計画し間もなく完成します。車椅子利用者の安楽を確保し、ゆったりと入浴出来るようになります。また、事業所は海拔の低い場所に建てられており、津波が心配される為、事業所の目の前の小高い山を避難場所として、車も走行できるように工事中でした。常に利用者の変化に寄り添った支援が実施されています。広く長い廊下で歩行練習が日課として実施されています。また、足湯(炭酸水使用)やレクリエーションの場にもなっています。2号館では市の文化祭に出展する為に、紙ひもを使ってつくられた花瓶が完成し、利用者の氏名がつけられ準備されていました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
55	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	64	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念:					
1	(1)	○理念の共有と実践 グループホームかがやき・かがやき2号館	理念の共有をするため、グループホーム会議で復唱したり、施設内の見えるところに掲示し「安心・安全・快適」に生活が送れるように支援しています。	事業所理念を基に、わかりやすい目標を掲げ、年度末にはサービス面も含め、各自評価し新年度に向けて実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	法人内の行事や地域のサロンに出向き施設の説明や体操、ゲームをして交流しました。その他、読み聞かせボランティアでも地域との交流があります。	正月には地域の獅子舞が訪れ、一人ひとりの健康を祈願して頂き、自治会の依頼で介護保険制度について説明する機会を得たり、地域の行事にも参加するなど交流を深めています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	サロンの中で認知症の説明や、施設紹介をしました。また、認知症サポーター養成講座も行い発信しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政、自治会長、民生委員の参加を得て2か月に1度開催しています。日常の行事の報告や、市や自治会からの情報を得て支援に繋がるようにしています。	各委員は会の目的を認識し意見交換し、サービスの向上のための協力体制が築かれています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議ににかほ市子育て長寿支援課の職員が参加。ほかにも、生活保護受給者には福祉事務所の職員定期的な面会や、情報交換を行っています。	ケア会議やグループホーム協議会では、制度改正などについて情報提供があったり、困難事例などで相談するなど連携を深めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを定め、見守りや声掛け等で対応している。困難事例に対しては、担当者会議を行い検討している。検討後、全職員に回覧し統一した対応を心掛けている。職員の少ない時間帯や、夜間、早朝には玄関の施錠はやむを得ず行っている。	全職員が共通認識をもって、拘束のないケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルはいつでも誰でも見れるように保管し虐待防止の意識付けをしている。無理な制止や言葉での無意識の虐待も注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名、日常生活自立支援事業を活用している。その為、市社協担当職員と連携、連絡を取っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明と確認を行い、契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情受付意見箱を設置している。電話でのやり取りや、面会時の際の会話の中で、家族からの要望や思いを反映するように努めている。	家族とはどんなことでも話せる環境にあり、意見や要望は運営に繋げています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各種会議の中で、話し合う場が設けられている。代表が参加する会議もあるため職員の意見や提案も反映されやすい。	職員は利用者の状態を考慮し意見や提案でハード面で改善された事例もあり(中間浴槽の増設等)、運営に繋げています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表参加の会議の中でも話し合う機会がある。また、管理者と代表が話し合い環境整備や、勤務時間の調整を行う時もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度より、外部の講師による施設内研修を年間計画で行っている。その中で認知症はもちろん、看取りやリーダー、管理者向けも計画に入れ、施設内でのスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの連絡協議会を通し、他施設との意見交換や研修をすることでネットワークづくりができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	声掛け、傾聴、話し合いなどから信頼できる関係に努め、勤務時には担当の入居者様とかかわる時間を設けることで関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居を決めるにあたり、家族や本人からの聞き取りを十分に行い、安心して利用していただけるよう不安や要望を聞いている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人のできる事に注目し、はさみを使った工作、貼り絵、塗り絵、洗濯干し、洗濯たたみを行ってもらっている。その中で安心・安全に生活ができるように支援している。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には状況、状態を報告している。また2号館では「かがやき通信」を発送し生活状況を伝えている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の床屋に来てもらい散髪を行っている。また、なじみの関係維持は難しいが、ドライブや外出を通して懐かしさや、楽しみ、喜びを感じられるよう機会を作っている。	知人や元職場の同僚などの面会があります。また お盆にはお墓参りや法要に出席するなど、社会・人間関係が途切れないように支援しています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の際のテーブルの位置を変えたり、ゲームや体操などを通してコミュニケーションを図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院やその他で退去になる場合等、その後の在宅支援について説明や相談を行いスムーズに進むよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月のモニタリングや、サービス担当者会議、評価を行い、日常や入居者の状況・状態の把握に努め本人の気持ちに寄り添い生きがいのある生活を送れるよう支援している。	生活歴や日々の関わりの中から思いや意向を把握し、内容は申し送りノートで共有し、一人ひとりに即したケアに努力しています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や、ケアマネからの情報と本人との会話の中から情報収集している。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌、チェック表、申し送りノート等の記録を通して現状の把握に努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当、管理者、看護師、ケアマネで話し合い評価をしたうえで介護計画書を作成している。認定調査時の調査書の提供も活用している。	本人や家族の意見や要望なども聞きながら、カンファレンスで検討し、定期的・随時モニタリング アセスメントを実施しながら、現状に即した介護計画が作成されています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録等をもとに、申し送りノートや会議をで現状確認を行い問題点やケアに必要な話し合いや情報を共有、対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設前の畑や田んぼの見学や、午ノ浜温泉までの散歩で季節感や匂い、気温を肌で感じていい刺激を受けている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在入居中の入居者様は月1回の嘱託医の往診が行われている。その他、緊急時や嘱託医の専門科以外は家族付き添いで受診している。	往診を主とした医療支援が実施されていますが、必要に応じて家族の協力も得ながら専門医などの受診もあります。受診情報はケース記録にわかりやすく色別で記入し、共有しています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と24時間体制で連携しており、緊急時に対応できる状態にある。訪問看護の訪問が週1回2時間ありその際必要に応じて嘱託医へ報告されている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必要な情報提供や、病院、病棟の担当者と連絡をとり、家族も相談しやすい環境を作っている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在看取りに該当する方の入所ないが、今後そのような状況になった時の対応や進め方について契約時説明している。	看取り事例もあり、職員は統一してターミナルケアの体制が整備されています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルをいつでも見れる所に設置している。また、訪問看護からも急変時の対応について指示や情報を得ている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練で消防の立ち合い検査を受けている。運営推進会議でも地域への協力を呼び掛けているが高齢化で難しいと回答が来ている。近くの企業へは協力依頼している。	同会社の敷地内の事業所と合同で火災を想定した訓練が実施されています。また津波を想定し事業所前の高台を避難所とするために整地が進められており、防災意識の向上を図っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮した居室、浴室、トイレの環境を整備している。	馴れ合いの言葉には注意し、会議やミーティングなどで話し合い、改善に繋がっています。入浴・排泄介助は同性で行うこともあります。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自ら意思を表現できない入居者には、声掛けや日常生活での表情等で思いを受け止め希望に沿ったケアを行うようにしている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	その時の行動や状態に合わせた対応を行っている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は自分で選んで着られるように助言することや、季節、気温もさりげなく伝え対応している。髭剃りやほかの整容についても個々に合わせ声掛け対応している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や準備は職員が行っているが、できる方には下膳をお願いしている。ほか、行事食やバイキングで食べる事の楽しみを工夫している。	食事が一番の楽しみになっている利用者達に、季節を行事の食べ物で感じていただけるよう工夫した支援が実施されています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々で水分量を記録1日の摂取量を把握している。体重の増減や排泄の状態に合わせて食事、水分量を個別対応している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けや、必要な方については付き添い支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の状態に合わせた声掛けや、見守り、介助を行っている。また、日中と夜間の対応の区別もしている。	用品を上手に組み合わせ、少しでもトイレで排泄できるように支援しています。改善に繋がった事例もあります。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適切な運動や処方薬(下剤)の管理調整を行い対応している。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	予定では週2回の入浴日になっている。拒否されたりその時の本人の体調や意向も聞きながら実施している。入浴がなくても週2～3回炭酸泉での足浴も行っている。	入浴を嫌がる利用者には時間を変えたりしています。重度化に伴い中間浴槽も準備中であり、快適な入浴が期待されます。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息はそれぞれが自由に居室でとることができる。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のファイルに服薬状態を確認できるよう綴じている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の好きな事、できる事を把握し気分転換にはかっている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	2号館は計画に沿って外出の機会があり、ドライブや買い物ができる。かがやきは外出の機会が少ない中でも個別での外出はとも喜ばれている。	近所への散歩は日常的に実施しており、地域住民と挨拶を交わすなど交流の場ともなっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内金庫にて保管し預かっている。管理は管理者が行っている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人からの郵便や電話は受けている。入居者様からの電話の申し出は特に聞かれない。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるように、壁画や花を飾っている。匂いについては、IPOSHを使っているため苦情は出ていない。	広い食堂は一人ひとりの状態を配慮した座席の配置となっています。また 広い廊下は様々なゲームや歩行練習の場にもなっています。 テレビを見ながら足浴も実施され快適な共用空間となっています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、廊下、事務室、居室とそれぞれが思い思いに過ごせる場所がある。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベット、洗面台以外は入所時に持参してもらい馴染み空間づくりはできている。工作や塗り絵等を居室内に貼り、一人ひとり違った居室環境になっている。	利用者の希望や状態に合わせてベットや家具類がレイアウトされており、一人ひとりの生活スペースとなっています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりやトイレ等の表示を大きくする、自分の居室と認識できる工夫をするなど配慮している。		